



心理臨床基礎講座

目 次

目 次 Ⅰ

【Ⅰ】心理学全般	2
発達心理学 ライフサイクル 学習心理学 記憶 認知心理学 認知バイアス	
人格心理学 クロニンジャー 社会心理学 認知的斉合性理論 臨床心理学	
【Ⅱ】受理面接（インタビュー）	13
診断的理解と共感的理解 情報の収集と提供	
臨床所見 主訴 経緯 経過 現況 生育歴 家族歴 振り返り 動機づけ	
【Ⅲ】心理査定（アセスメント）	17
心理検査 ICD分類とDSM分類 外因性・内因性・心因性 防衛機制	
病態水準と人格構造 欲求不満と葛藤	
【Ⅳ】心理面接（カウンセリング）	23
構造化 守秘義務 インフォームド・コンセント ラポール	
心理面接体系 来談者中心療法 認知療法 行動療法 精神分析的な心理療法	
【Ⅴ】知能と発達	33
スペクトラム概念 知的障害 自閉性障害 発達障害	
【Ⅵ】パーソナリティ	37
クラスター分類 統合失調質 統合失調型 妄想性 反社会性 演技性	
境界性 自己愛性 強迫性 依存性 回避性	
【Ⅶ】陽性症状と陰性症状	42
統合失調症 幻覚 妄想 一級症状 ダブルバインドセオリー	
【Ⅷ】抑うつと躁転	48
うつ病性障害 抑うつ状態・抑うつ気分 三大症状・三大悲観	
双極性障害 躁転 対象喪失	
【Ⅸ】強迫と恐怖	52
不安障害 強迫性障害 恐怖性障害 パニック障害	
【Ⅹ】ストレスとトラウマ	57
ストレス トラウマ ASD PTSD 適応障害	
解離性障害 転換性障害 身体表現性障害 ヒステリー概念	
【Ⅺ】依存と支配	62
摂食障害 物質関連障害 その他の依存 コントロール	
機能不全家族 アダルトチルドレン	
【付録】代表的精神疾患分布図	65

【 I 】 心理学全般

1-1. 発達心理学

人間を「死ぬまで発達する存在」と捉えた心理学。

[児童心理キーワード]

- ・アタッチメント（ボウルビィ提唱）…母性剥奪
- ・分離個体化理論（マラー提唱）…分離不安
- ・児童虐待（child abuse）：①身体的 ②ネグレクト ③性的 ④心理的

[発達区分]名称・年齢層・準拠

新生児	生後 28 日以内	母子保健法
乳児	1 歳未満	母子保健法
幼児	1 歳～小学校就学直前	母子保健法
児童	小学生	学校教育法
	18 歳未満	児童福祉法
生徒	中学生と高校生	学校教育法
学生	18 歳以上の大学生高等専門学校生	学校教育法
少年	小学校就学～18 歳未満	児童福祉法
	20 歳未満	少年法
青年	15～34 歳	厚生労働省
成年	20 歳	民法
壮年	25～44 歳	健康日本 21（厚生労働省）
中年	45～64 歳	健康日本 21（厚生労働省）
高齢者	65 歳～	WHO

[健康日本 21 の 6 段階区分]

幼年期 0～4 歳、少年期 5～14 歳、青年期 15～24 歳、
壮年期 25～44 歳、中年期 45～64 歳、高年期 65 歳～

[行動発達指標]

生後 1 か月まで	眼差しの互惠性
	表情への注視
生後 1 か月	予期的接近行動
生後 1～2 か月	遊びとゲーム
生後 2～3 か月	社会的微笑
生後 8 か月	複雑な表情
	人見知り

[言語発達指標]

0～1 歳	喃語
1 歳	初語・1～3 語
1 歳半	15～20 語
2 歳	200 語
2～3 歳	2 語文
3～4 歳	3～4 語文
4～5 歳	4～6 語文
5～6 歳	複文

1-2. ライフサイクル

エリク・H・エリクソン提唱。

人生を8つの段階に分けて、各段階に解決すべき発達課題があるとした。

発達段階	心理的危機	獲得する力	重要な他者
乳児期	信頼性 対 不信感	希望	母親か代理者
幼児期	自律性 対 恥・疑惑	意思	両親
幼児期初期（児童期）	積極性 対 罪悪感	目的	家庭
学童期	勤勉性 対 劣等感	自己効力感	学校や近所
青年期	同一性 対 同一性拡散	自己統一感	仲間
成人期初期（壮年期）	親密性 対 孤独感	幸福・愛	親友や恋人
成人期後期（中年期）	生殖性 対 停滞感	世話	配偶者や子ども
老年期	統合性 対 絶望感	英知	人間

[流れの例]

生まれ、飢え、不快を感じ、外的世界に不信感を持つ。欲求を満たしてくれる親を信頼する。躰と世話を通して、失敗を恥じる。次第に自分で我慢や調節ができるようになる。秘密を持ち、嘘をつくが、親にばれて怒られ、罪悪感を抱く。正義感を持ち、積極的に活動をする。同級生に負け、劣等感を感じる。努力する。能力の限界を知り、妥協することを覚え、自分とは何かを悩む。自分はたった一人の存在であることに気づく。孤独を感じる。同性の理解者に出会い、異性と出逢い結婚する。生活が安定し、変化に乏しくなる。子どもに期待をする。思うように育たない子どもに、ショックを受ける。自分の人生を意味づけて、死ぬ。

2-1. 学習心理学

人間の行動を、「学習の結果として獲得されるもの」と捉えた心理学。

[強化と強化子 (=報酬)]

- ①連続強化 …学習速度は速いが、強化子が消えるとすぐに反応が消失。
- ②間欠強化 …学習速度は遅いが、強化子が消えても長期間反応が持続。

[刺激と反応]

- ①弁別 …特定の刺激にしか反応しなくなる。
- ②汎化 …類似した反応を示すようになる。

[条件づけ]

- ①レスポナント条件づけ …刺激に報酬を付随。
- ②オペラント条件づけ …反応に報酬を付随。

[その他の学習]

- ①モデリング (模倣) …同じようにやってみる。
- ②試行錯誤 …次々に行動してみる。
- ③洞察 …内的想像から飛躍的に解決行動に至る。

[消去]

- ①強化子の除去 …汎化の後、反応消失。
- ②罰の付与 …急速に反応消失。

[学習性無力感 (セリグマン提唱)]

抵抗や回避の困難なストレス状況に置かれると、逃げようとさえしなくなる。

2-2. 記憶

[記憶のメカニズム]

- ① 記録 …チャンキング（単位化）・ラベリング（名札づけ）
- ② 保持 …リハーサル
- ③ 想起 …再認・再生・再構成

[多重構造モデル]

- ① 感覚記憶（センサリーメモリー）
 - ・ 視覚的感覚記憶（アイコニックメモリー）貯蔵量（大）保持時間（短）
 - ・ 聴覚的感覚記憶（エコイックメモリー）貯蔵量（小）保持時間、約 4 秒
- ② 短期記憶

選択的注意が向けられた感覚記憶で、リハーサルによって一時的に貯蔵。
- ③ 長期記憶

無限の貯蔵量を持つ永続的な記憶。必要に応じて利用される。

 - ・ エピソード記憶 …体験に基づく個人の記憶。
 - ・ 意味記憶 …一般的知識の記憶。
 - ・ 手続き記憶 …言語化しにくい技能に関する記憶。

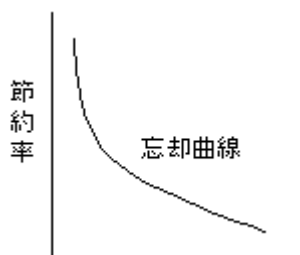
[系列位置効果]

- ① 初頭効果（1） …リストの最初の方が覚えやすい
- ② 親近効果 …リストの最後の方が覚えやすい

[学習抑制]

- ① 順向抑制 …以前の学習によって、新しい学習がしにくい
- ② 逆向抑制 …新しい学習によって、以前の学習を忘れる。

[忘却曲線（エビングハウス提唱）]



時間の経過とともに、次第に緩やかに忘却する。

3-1. 認知心理学

人間の知覚の特殊性を示した心理学。

[スキーマ]

人が認知活動において用いる既得の方略・図式。物事の捉え方のくせ。機能的に正常な人間に共通するものと、個人または場面によって異なるものがある。

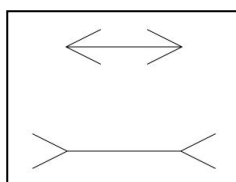
[原因帰属]

行動の結果をどのような原因と考えるか。

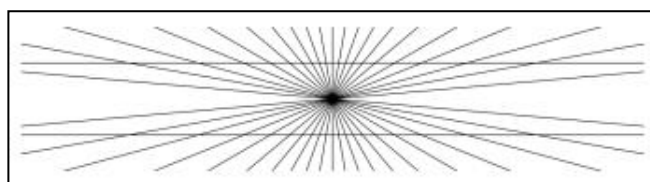
	安定	不安定
内的	能力	努力
外的	課題の難易度	運

[視覚の特徴]

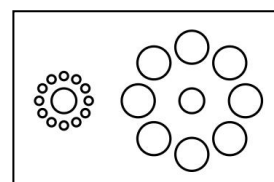
① 錯視



ミュラー・リヤー錯視



ヘリング錯視



エビングハウス錯視

② 多義図形

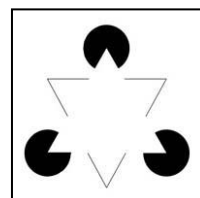


ルビンの杯



妻とその母

③ 主観的輪郭



カニッツアの三角形

[視覚における選択的注意]

- ① ポップアウト効果 …瞬間的に目に飛び込んでくるターゲット認知。
- ② ストループ効果 …文字情報と色彩情報が関与し合う。

[聴覚における選択的注意]

- ・カクテルパーティ効果

自分に無関係な情報を見逃し、自分に関係のある情報だけに注意が向くこと。

[触覚における選択的注意]

皮膚と衣類の接触面の感覚など。